

大自然の残る裏磐梯

2年3組 S.H

ぼくは、半年前から磐梯山の噴火のことについて調べてきました。今年は5月に行ける予定だったけど、この大震災があり、9月に延期になってしまいました。しかし、その調べ学習の時間が増え、それぞれ自分が知りたいことや、現地に行ってみてみたいことができってきました。僕は火山以外にも、せっかく裏磐梯に行くのだから、この我孫子では見られない鳥や昆虫そして植物なども見てみたいと思い、1日目は磐梯山火口探検2日目には、バードウォッチングを選択しました。

そして、9月4日台風の心配もあったけど無事に裏磐梯に向けて出発することができました。福島県に入るとバスの中から美しい磐梯山が見えて、さらに楽しみになってきました。そして、いよいよ体験学習が始まりました。銅沼を目指し、磐梯山をのぼりながら、ネイチャーガイドの佐藤公先生の話の聞きました。佐藤先生は去年布佐中に来てくださり、火山のことについて分かりやすく教えてくれました。

今回は磐梯山の現地で説明してくれるということで、どんな話をしてくれるのか楽しみにしていました。いろいろな話を聞いたけど、特に印象的だったのは、銅沼のことで銅沼は、酸性の水で、魚が暮らせなかったりすることや、磐梯山が噴火したとき鉄分が流れ込んで赤くなったなど銅沼のことをたくさん教えてくれました。他にも、火山はスキー場に適していることや、中ノ湯では昔、実際に温泉をやっていた、磐梯山が噴火したとき、どんな状況だったのかを証言した人の文を読んでもらったりしました。中ノ湯のところで温泉のようなものが湧いていて、暖かいのかなと思って触ってみたら冷たかったりして、自然では、とても不思議な現象が起こっていました。

この写真は銅沼の写真です。これは僕が実際に行き行って撮った写真ですが雲が多くて磐梯山の頂上が見えません。しかし、調べてみると晴れている日には後ろに磐梯山の頂上も見えて、水の色も青色に光って見えます。このように自然は、天気コロコロ変わって、銅沼だけでなくいろいろなものが天候によって見える景色が変わることがわかりました。今回は曇りの銅沼が見えたけどぜひ晴れや、雪の赤沼を見てみたいと思いました。



この2つの写真はどちらも中ノ湯付近で撮った写真です。見てわかるように温泉らしきものが湧いています。この水は温かそうに見えるけど冷たく、場所によってはぬるいものもあります中ノ湯は昔、温泉をやっていました。この写真は湧いているところのごく一部で本当にたくさんこのように水があって、今も温泉をやっているような場所でした。僕は実際に水がわいているのなんて見たこともなかったので今回、自然のすごさにとても驚きました。次は、磐梯山だけでなく、いろいろな火山でこのような光景を見てみたいと思いました。



初めて見た鳥や植物

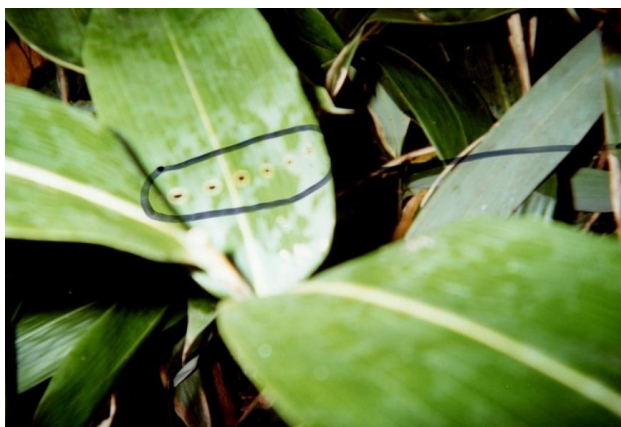
2日目は、全日コースで、僕はバードウォッチングに行きました。まずは、休暇村裏磐梯の周辺で鳥の鳴き声や巣などを見たり聞いたりしました。からすには、ハシボソからすとハシブトからすがいてハシボソはくちばしが細くハシブトは、くちばしが太いのが特徴です。たまたま近くにカラスがいて望遠鏡で見てもたらハシボソカラスでした。このように鳥の種類を自分の目で確かめるのも、意外と面白いなと思いました。スズメも飛んでいました。そのスズメを追っていくと巣がありました。肉眼で見るとよく見えなかったので、双眼鏡を使ってみたらとてもよく見えました。この数年間鳥の巣なんか見ていなかったの、久しぶりに見ました。スズメは都会と自然の森に住んでいるスズメでは巣の作り方が違うそうです。都会に住んでいるスズメは、木があまりないので人間が出したごみや落ち葉などで作っていて、自然の森にすんでいるスズメは、木の枝で作っていたり、木の中につくこともあるそうです。僕たちが住んでいるところで、よく朝にごみを出すと、ごみが漁られています。それを思い出して、ごみをあさる理由がわかりました。

鳥の観察が終わったら、裏磐梯を歩きながら、いろいろなものを見たり草野先生の話

聞いたりしました。途中で見たことのない卵があって、何かなと思ったら、草野先生が

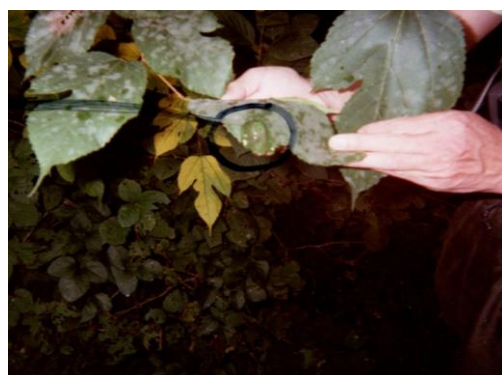
「これは水生昆虫の卵だよ。」と言って水生昆虫とは何かなと思い聞いてみたら、生涯のほとんどを、水の中で過ごす虫のことだそうです。しかし、その卵は、何故か木にくっついていました。でもよく考えたらその下は湿地なので、産まれたら木から下りるのだなと思いました。

他にも葉っぱが一行に穴があいていてどうしてそうなったのかを聞いてみたら、葉っぱが開く前に何かの昆虫がその中に卵をうみ、その葉っぱを一枚一枚破りながら出てきて葉っぱが開くとききれいに穴が開くそうです。そして、キウイと同じ原種のサルナシや山ブドウを食べたりしました。僕はキウイが酸っぱくてあまり好きではないけれど、食べてみたらとても甘くて、おいしかったです。逆に山ブドウは甘いかなと思って食べてみたら、とても酸っぱかったです。このように自然には、とても不思議な事が起こっていて、僕たちが住んでいる我孫子とはまったく違い、気候や空気がちがっていて、とても気分がよかったです。



葉っぱに一行の穴が開いています。この葉っぱ以外にもたくさん穴があいていて少しジグザグにあいているものもありました。

見えにくいかもしれませんが、この透明なゼリーみたいなものが水生昆虫の卵です。葉っぱの下は湿地なので、おそらく卵からかえたらそこに行くと思います。



2日目の夜にはキャンドルサービスもやりました。最初はキャンドルサービスなんてめんどくさいという気持ちが正直ありました。林間学校出発の直前にクラスの出し物をするという聞いてビックリしました。しかもそれを決める時間は一日目の夜に一時間くらいしかありませんでした。しかしその時間では決まらず、どうなるのかもわかりませんでした。そして2日目はリハーサルの時間しかなかったけど、空いている時間を使って、打ち合わせをしてもい

いということになったのでみんなで話し合いました。そしてようやく決まって本番を迎えました。会場はとても暗くて面白そうな雰囲気でした。そしてみんなに火が分けられ、いろいろな歌を歌い、会場が盛り上がってきたところでクラスの出し物を披露しました。2組の発表が終わり3組の発表をやりました。はっきりいって発表はぐだぐだだったけど、楽しかったし、これも1つの思い出になったと思います。他にも栄火長の話やフォークダンスなどいろいろなことをやり、クラス、学年の友情が高まったと思います。

キャンドルサービスは楽しかったけど、感動することもありました。それは富吉さんの話です。3月11日の東日本大震災でぼくたちが暮らしている布佐でも液状化の被害があって今でも普通に生活ができない人がいます。しかし、岩手、宮城、そして僕たちが実際に行った福島の3県は津波の被害に遭い自分の家、大切な家族を失った人も多いと思います。富吉さんはボランティアとして被災地に行ってそこで学んだこと、感じたことをすべて僕たちに話してくれました。富吉さんは被災者を勇気つけるために行ったけど、その人たちに声をかけてもらったり話をしたりして逆に、自分が元気をもらったと言っていました。それは被災して悲しくても前向きに生きているのだなと思いました。

つらかったウォークラリー

3日目はウォークラリーでした。ウォークラリーはぼくたちに何も知らされていなかったので僕たちはただ歩くことしか考えていませんでした。そして与えられた指令所を見て13kmと歩くと書いてあったのでとても驚きました。ウォークラリーは班で協力してゴールを目指すゲームなのでまずは協力することを心がけました。そしていろいろな話をしている中、美しい花や鳥の鳴き声などが聞こえてきて歩いてとても気持ちがよかったです。初めのほうは込まずを読むのも簡単に順調に進んで行ったけど途中、結構歩くと書いてあって2, 3km歩いても次のポイントまで辿りつけませんでした。このとき班全員が同じことを考えていました。それは道を間違えたということです。戻ろうという人もいればこのまま行こうという人もいて班長の僕は判断に迷いました。しかし戻っても今まで歩いてきた道もわからないし、まだ間違えたとは決まったわけではなかったのでこのまま進みました。そしたら無事ポイントを見つけることができました。そのまま歩いていると別の班が後ろから勢いよく走ってきました。そしてふと時間をみるともう10:30を回っていました。ウォークラリーの打ち切りは11:30なのでもうゴールは無理かなとあきらめ始めました。そしてゆっくり少しずつみんなと話しながら歩いているとついに11:30を回ってしまいました。まだどのくらいの距離があるのかも分からず「みんな待っているだろう」と思いながら歩きました。すると逆のほうから来た班とすれ違いまだゴールしている班は少ないと考えゴールできる希望も出てきました。しかし、ビジターセンターに着いたところで打ち切りになってしまいました。でもこのウォークラリーでたくさん

ことを学びました。1つ目は今まで以上の班の協力です。これまでこんなに班のみんなと行動したこともないし話したこともありませんでした。一人ではできないことでもみんな協力すればできるということを実感しました。このウォークラリーで作った班の絆を環捨てないでこれからの学校生活にも生かしていきたいです。そして2つ目は裏磐梯の美しさです。特に印象的だったのは、五色沼です。僕たちが見た沼は、弁天沼、瑠璃沼、そして青沼です。水がどれも青くてきれいでした。他にも桧原湖などいろいろな沼や湖を見ました。我孫子には利根川と手賀沼しか水が見えるところはないけど、裏磐梯には僕が見ただけで、30個は沼や湖がありました。僕たちが住んでいる所とはまた別の世界に行けたような気分になれてとても楽しかったです。

この写真は中瀬沼の看板で中瀬沼のことだけでなく磐梯山の噴火についてや沼や湖がどのようにしてできたのかが書いてありますでもこの写真を見てわかるように日本語だけでなく英語でも書いてあります。これは磐梯山を世界ジオパークにしようとする皆さんの人が協力して今もそれを目指しています。ジオパークとは人と大地の関係を楽しみながら学習できる自然の公園で、地質や地形だけでなく素晴らしい景観や貴重な動物、植物をはじめ文化や歴史、さらにはおいしい食べ物や温泉など大地上のすべての物を丸ごと楽しもうというもので大地を楽しく学ぶテーマパークです。磐梯山は、



日本ジオパークには認定されていますが世界ジオパークには認定されていません。この看板のように英語で書いてあれば外国人の方が訪れても分かってもらえて磐梯山を誰にでも楽しんでもらうことができます。今、日本でジオパークに認定されてい

るのは京都、兵庫、鳥取砂丘まで続く山陰海岸、新潟県の最西端にある糸魚川、北海道の洞爺湖、有珠山、そして島原半島の4つです。磐梯山も5つ目として世界ジオパークに認定してほしいです。

林間学校実行委員として

僕は林間学校副実行委員長、班長会長として林間学校前から準備を進めてきました。今年は例年とは違い夏休みが終わったらすぐに出発で夏休み前までにはほとんど準備を終わらせなくてはなりません。しかし7月の中旬になってもしおりが完成せず、しおり

なんて簡単に終わると思っていたけれどそんな甘いものではありませんでした。1回目は内容がめちゃくちゃでボツ、2, 3, 4回目もボツ、そしてようやく5回目にして合格をもらえました。しかしそれは班長会の仕事のほんの一部でもっとやるべきことがありました。それはホテルマナーの実践、挨拶、部屋割りなどです。残された時間はあまりなく、その上実行委員の仕事もあり頭の中で混乱していました。実行委員では林間学校に関する総合的なものをきめ、そこで決まったことをみんなに伝えたりしました。どちらの仕事もめちゃくちゃ大変で途中、やめたくなることもありました。でもここでやめたらみんなに迷惑がかかると思い、必死に頑張りました。そして何とか夏休みまでに最低限のことは終わらせることができました。9月1日、2日も仕事内容の最終確認、学年集会などいろいろと忙しかったけど、すべての仕事内容が終わり、出発することができました。今まで忙しかった分3日間は楽しく充実した学習、行動ができました。今、思うと林間学校の実行委員をやっていて本当によかったなと思うし、今までこんなに大きな仕事をやったことがなかったのでよく、自分に務まったなと思いました。この3日間そして、この仕事をして学んだことはたくさんあったのでこの経験をこれからの中学校生活、高校、大学そして社会に出て生かしていけるようにしたいです。

出典 <http://bandaisan-geo.com/modules/pico/index.php?content-id=1>

<http://www.meti.go.jp/policy/economy/hyojun/techonoinfra/geoparks/w-geoparks.html>